

## 5 スポーツコミッション事業

コーディネーター それでは、お時間です。事業番号5 スポーツコミッション事業についての審議をいたします。皆さま方、お手元の資料16ページをお願いいたします。

まず、前回、第1部ですね、振り返りです。第1部における議論の概要ですが、論点は4点ございます。ごめんなさい、3点ございます。

1つ、スポーツコミッション設置後の成果について。スポーツコミッション事業によって、スポーツ振興と地域経済の活性化の両面で将来的にどのようなビジョンを描いているのか。また、スポーツコミッションを設立して、スポーツが盛んな町というイメージアップにつながっているかということに対してまして、スポーツコミッションの使命として新たなスポーツ観光市場創造を掲げている。スポーツの町の印象が高まっており、スポーツツーリズムの先進地というアピールもできたのではないかと。

論点の2。今後の展開について。今後の展開としては、どのような大会を計画しているか。また、大会を計画して、新たな観光市場を創造するということで、観光客をどのくらい増やす見込みか。また、地域経済の活性化のために経済波及効果はどの程度見込んでいるか。これらに対してまして、国内の大会の誘致だけでなく国際大会の誘致も考えている。今年度は、イベント数、観客数とも昨年度を大幅に上回るものと見込んでいる。ただ一概に誘客数だけで結果を判断するのではなく、イベントの質、内容自体も高めていくことを大切にしていきたい。今後、大会を開催にするに当たり、助成金を出したイベントを中心に調査を行い、その経済効果を測定していきたいと考えている。

論点の3。経済効果を高めるための工夫について。この事業によって人に来てもらい、お金を使ってもらうためにどのような工夫をしているか。国際大会を誘致するほうが効果的ではないか。盆栽村、鉄道博物館、岩槻の人形など本市の観光資源とのタイアップで観光客の増加ができるのでは。ぜひ、効果測定についての研究もしていただきたい。これに対しまして、将来的には、女子サッカーの聖地化。例えば、特定競技、シニア、ジュニアといったカテゴリーでのメッカづくりを目指し、独自色を出して経済効果を高めていきたい。国際大会の開催は大変効果的であると思うので、積極的に誘致していくが、地味に見えても経済効果の高い国内大会もあるので、そのバランスを考えながら誘致していきたい。現在も、市内の観光情報を提供して、試合が終わったあとに観光してもらおうようにしており、1つの重要な要素として今後も続けて取り組んでいくというような回答がございました。

これらを踏まえまして、市民の方のご意見です。市民に大々的にアピールして、市民全員が盛り上がっていくことで受け入れ態勢もでき、経済効果も期待できる。スポーツを通じて交流だけでなく、観光等にもつなげていくためには、見て帰るだけの人々をいかに引き止めるかが問題である。さいたま市にはスーパーアリーナ、さいたまスタジアム2002などあり、これらを利用しない手はない。経済効果を主要として出していかなければならない。経済効果があるため、強力に推進、バックアップしてもらいたい。

そのほか、市民モニターの方のご意見です。スポーツ事業で経済効果を出すには、人が集まりたくなる、行きたくなるイベントの企画を考えてほしい。一石二鳥の事業、こういう取り組みもあるのかと思った。埼玉スタジアム、スーパーアリーナの利用でもっと経済効果を期待したい。誘致するイベントの増加によって、地域スポーツの活動の場が足りたくなるようなことがないようバランスは取ってもらいたい。経済効果も重要だが、市民がスポーツに親しむ面も充足されるべきだ。そのほか、傍聴の方からは、厳しい現状を認識し、地道に事業を推進してほしいと、こういった意見がございました。

それでは、事業所管部局から第1部を踏まえてですね、見直し案についての説明を求めます。

所管局 はい。説明に入る前に、担当部署の職員の紹介をさせていただきます。私、観光政策部長吉田と申します。よろしく願いいたします。次、観光政策課長石原でございます。よろしく願いいたします。同じく、観光政策課課長補佐近藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

では、私のほうから説明をさせていただきます。失礼して、着席して、説明をさせていただきます。

第1部では、いろいろな意見をいただきまして、どうもありがとうございました。それぞれですね、貴重なご意見として、今後の事業の取り組みに活かしてまいりたいというふうに考えております。第1部での議論を踏まえまして、見直し案として17ページの中段にございます四角の中にですね、3点白丸がございますが、3つの方向性で整理をさせていただきました。

まず、1点目でございますが、いただいたご意見の中でですね、市民に対してもっとPRをして、市民全体で盛り上げていく必要があるんじゃないかとか、それから、集まりたくなる、行きたくなるイベントをやってほしい。スーパーアリーナや埼玉スタジアムの利用や活用もしてほしいと。こういったご意見も踏まえまして、まず、丸の1点目でございますが、PR効果の高い国際大会やメジャーな競技種目の大会等の誘致とともに女子サッカーの聖地化を推進するなど独自性のあるスポーツのまちとしてのブランド化とイメージアップを図っていくということを挙げさせていただきました。具体的にはですね、四角の下に黒四角で4つございますが、その一番上のところにございますように、先日協定を結びましたオランダのスポーツコミッションとの連携などによりまして、国際大会を誘致したり、そういった国際大会をですね、スーパーアリーナとか埼玉スタジアムなどで開催するとか、今ですね、オリンピックでもだいが大活躍をしました女子サッカーの聖地化、こういったものに取り組んでいくことによりまして、スポーツのまちとしてのイメージアップにつなげていきたいというふうに考えております。

それから、2点目としましては、経済効果に対するご意見が、やはり、多かったことを踏まえまして、経済効果を高める工夫として、ご意見として、失礼しました、丸の2点目

ですね、経済効果をより高めるため、交流人口の拡大や市内滞在が期待できる大会など、ターゲットを明確にした誘致を戦略的に行っていくということを挙げさせていただきました。

具体的には、その下の黒四角の2番目でございますように、選手だけじゃなくてですね、付き添いの人数が割と多いジュニアの大会ですとか、それから、時間的、金銭的にもゆとりのあるシニアの大会などはですね、大会が終わったあとに、観光していただいたり、宿泊をしていただくようなことにつながることを期待できますので、そういったものをターゲットの1つとして戦略的に誘致活動を展開していこうというものでございます。

それから、3点目としては、これも、経済効果を高める工夫にも関係するんですけども、白丸の3点目です。ご意見としていただきましたものに、観戦に来た人たちを観光につなげるなどいかに引き止めるかというようなご意見など踏まえまして、白丸の3点目でございますが、スポーツ大会等の開催とさいたま市の特徴的な観光イベント等をタイアップさせて、本市での大会開催に付加価値を与えるとともに、おもてなしの心を伝え、リピーターの獲得を図るということを挙げさせていただきました。

具体的には、その下の黒四角の3点目でございますが、さいたまシティマラソンでは前夜祭を実施しまして効果を上げましたように、今年の秋にですね、開催予定のウォーキング大会でも食べ物をテーマとする観光イベントをおもてなし的に同時開催をして相乗効果を図っていこうというものでございます。経済効果につきましては、その下の黒四角の4点目でございますように、今後ですね、大会ごとに経済効果を算定しまして公表していきたいというふうに考えております。以上でございます。

コーディネーター はい。ありがとうございました。所管局の事業見直し案が出ましたが、確認事項ございますか。

行革本部 はい。それでは、1点だけ確認をさせていただきたいと思います。

この事業は、いろんな大会を、イベント、さいたま市に誘致して、外からお客さんなり、選手、関係者を呼んで経済効果を高めるという1つの大きな目標の中で非常にいい事業だというふうに思うんですが、それを踏まえまして、いろいろなこういった取り組み案をお示しいただいている中で、1点気になりますのが、市民モニターさん、あるいは、市民委員の方の意見として結構ありましたのはですね、一方で、やはり、そういったせっかくのイベント、大会なので、さいたま市の市民の皆さまが直接参加するなり親しめるそういったイベントもしっかりと配慮していただきたいという要望が結構あったと思うんですね。この辺りについての考えをお聞かせいただけたらと思います。

所管局 おっしゃるようになりますね、この事業の効果を高めていくためには、やはり、市民がスポーツに親しんでいただくという、やはり、側面は必要だといくふうに思っております。一義的にはスポーツを見ることでですね、スポーツに親しんでいただくというのはも

とよりですね、例えば、この秋に実施します先ほど申し上げました「ツーデーマーチ」ウォーキング大会をやるんですが、そういったものにたくさんの市民の方にですね、ご自身で参加していただけるそういったイベントもございますし、イベントにボランティアとして参加していただくような仕組みもですね、今後考えていきたいというふうに思っております。市民がスポーツに親しんでいただくことがおもてなしにつながって、それが観光客を増やしてですね、さいたま市のイメージアップにつながって経済効果も高まっていくのではないかなと、そんなふうに思っております。

行革本部 ありがとうございます。

コーディネーター それでは、見解のほうをお願いします。

行革本部 はい。それでは、ただいまの確認事項も踏まえまして、改革担当部局としての見解を2点ほど申し上げたいと思います。基本的には、すでにお示しいたきました見直し案の方向性と一致しております。具体的にその中で2点ほど申し上げたいと思いますが、さらに経済効果を高めるために具体的な指摘事項とさせていただきたいと思います。

市内の観光施設、宿泊施設、さらには飲食店とのタイアップを積極的に進める必要があるという点を指摘させていただきました。

それと2点目。これも、前回の議論を踏まえまして、波及効果の測定につきまして、所管部局さんなりの取り組み方針、方向性というのを、今回お示しいただいたわけです。これは、何分にもこの事業のまさに大きな目的の1つである地域経済の活性化等を示す重要な指標であると考えておりますので、その算定方法を確立して、速やかにその波及効果を公表していただくという必要があると考えております。以上です。

コーディネーター はい。ありがとうございます。それでは、担当部長さん、観光政策部長さんお見えになっておりますので、ご意見いただければと思いますが。

所管局 はい。いろいろな角度からご審議をいただきまして誠にありがとうございます。このスポーツコミッション事業は、開始後間もないことからいまだ手探りな部分が多いところでございますが、即効性というよりは継続的に実施していくことで初めて大きな効果をもたらすものと考えております。

しかしながら、スポーツを通じて地域経済の活性化を図ることが事業の一義的な目的ですので、今後、きちんとした効果測定を行っていき、どのぐらいの経済波及効果が期待できる事業なのかお示ししていきたいと考えております。また、本日開催したスポーツ大会が参加者だけでなく、市民にとって楽しい、素晴らしいと感じるものにしていかないとこの事業は長続きしていかないものと考えています。市民の皆さまが楽しみ、その上で参加者や来訪者に対し温かいもてなしをしていくことが本市へのリピーター獲得につながり、

スポーツ大会の開催ならさいたま市といった地域ブランドが確立できるものと考えています。

今回の審議で得られたさまざまなご意見を、今後参考にしながら事業を推進してまいりたいと思います。本日はありがとうございました。

コーディネーター はい。ありがとうございます。ここで議論は終結いたします。

それでは、市民委員、また、市民モニターの皆さま方、ただいまの事業内容案の見直し、また、見解、改革担当のほうの見解をお聞きになりながらご意見、シートのほうにご記入をお願いいたします。

それでは、何人かの方、ご発言いただきたいのですが、市民委員の皆さまから、まず、はい、じゃあ、真ん中の方。

市民委員 この事業を大いに進めてほしいんですけども、1つの意見としてですね、やっぱり、これ、経済効果を増していくために人集めというものが重要だと思います。ぜひ、いろんなイベントですね、例えば、今度あるさいたまマーチも、今、こういうようなマーチにですね、やっぱり、こう、ちょっと有名人がですね、招待者ですね。招待者は、結構金を取る人がいっぱいいますからその辺のバランスもあると思うんですけども、やっぱり、市長と一緒に歩くよりは、なんだっけ、ホテイなんかのなんとかが、歩いたほうが人は集まると思うんですね、市長には大変失礼ですけども。そういったこともぜひ考えてほしいです。

所管局 ご提案ありがとうございます。おっしゃるとおりですね、著名な方がおいでいただければ人もそれだけ集まると思いますし、多分、イベント自体もですね、盛り上がるものだと思いますので、参考にさせていただきます。ありがとうございました。

コーディネーター ほかにご意見どうでしょうか。よろしいですか。

それでは、市民モニターの方からご意見いただきたいと思います。市民モニターの方でご意見、あるいは、ご感想でも結構です。あれば挙手お願いします。よろしいですか。それでは、お手元に意見シートがございますので、ご自由に書いていただければと思います。それではですね、以上でスポーツコミッション事業の審議は終了いたします。この内容案、また、皆さまのご意見を反映して今後の事業進行、また、予算編成などのほうに反映させてまいりたいと考えております。

それでは、この事業を終わりますので、引き続き次の事業に移ります。ここで、事業所管部局が入れ替わりますので、休憩をさせていただきます。

所管部局 どうもありがとうございました。

遠藤 また、私、コーディネーターのほうにつきましてもですね、前半の部といたしまして、私、これで終了いたします。後半につきましては、前回7月22日のコーディネーターでございます政策局モリタがコーディネーターとしてこちらのほうに座らせていただきます。

前半の部、これで終了です。ありがとうございました。

(了)